

賞 會 長 會 法 人 出 雲 法 人 社 團 公 益

「税金のおかげで実現できる私たちの暮らし」

出雲市立平田中学校 三年 内藤 沙季子

二〇一九年十月に、消費税が八%から十%に引き上げられました。私も買い物をする時には八%の税率でよく金額を計算していました。百円均一のお店で買い物することが多く、やっぱり割高な印象はありました。その時は少し嫌な気持ちにはなりました。ただ給食を安く食べられるなどのメリットもあるので、けっして嫌なことばかりではないと思います。

私の父は市役所で税に関する仕事をしています。普段なら夕方すぎに帰宅しますが、三月四月は深夜になる前に自宅に帰ることが多いです。父に何故そこまで仕事が遅いのか聞いたら、確定申告がとても忙しいと疲れた顔で答えていました。

私にとって税金のことに関

わる人が身近にいて良かったと思います。税金のことを知りたいと思った時には、いつでも父から具体的なエピソードが聞けるのは大変勉強になります。父の仕事の忙しさから考えると、税金について学べるのがたくさんあると思います。

私たちは普段意識することは少ないと思いますが、身のまわりには税金のおかげで成り立っているものがあまりに多いことに最近ようやく気づきました。「税の作文」を書くにあたり、資料を読んだりして税金の使い道がさまざまなお所にあると知りました。例えば小学校の時に習い事

としてやっていたドッジボールの大会会場になる体育館や、地元にある演



奏会場として使えるプラタナスホール。それだけではなく、海洋館「アクアス」や三瓶自然館「サヒメル」など地元の人なら誰でも知っているような施設も税金で造られたというところが私には大変意外でした。身近では祖父が出雲市に電話して外灯などを設置した話を聞きました。このような市民

生活の困り事に自治体は税金をもとにして動いてもらえるようです。そのような税金がもし、なくなったとしたら皆さんはどうなると思いますか？社会担当の担任の先生が夏休みに入る前に、課題の説明としてYouTubeで「税金が無くなった世界」の動画をを見せてもらいました。その中には学校に行けない人が現れたり、道路やごみ処理に警察消防など今まで当たり前機能していたものが全てストップする様子が映っていました

た。私はその様子を見てあまりにも税金が無い場合の恐ろしさを感じました。税金があるのとないのとで、これだけの落差があるのかと大変おどろきました。私たちが普段に暮らせるその裏には、国民の税金という恩恵のおかげだと思います。

日本の小中学校は義務教育が法律で定められています。教科書は無料でもらえ、必要以上に出費をすることはありません。私の姉は今高校生で、教科書代や弁当の費用など私たちよりも多くお金がかかっています。これらは税金のおかげです。また警察や消防など人々の生活を守ってもらえるのも同じです。

私たちが安全で快適な暮らしができるのも、なくてはならない税金があるからです。